

■会場：ラフォーレミュージアム原宿/442m+ラフォーレ原宿館内 ●主催：ラフォーレ原宿 ●協賛：エプソン販売(株) ●協力：大日本印刷(株)/富士フィルム(株)/(株)インテック/(株)竹尾 ●企画制作：ラップネット+水谷事務所 ●アートディレクション：水谷孝次 ●制作協力：パッション

KEY WORD

●アート ●印刷・製版 ●写真 ●ポスター

POINT

2000年最初の企画は、「明るさ・元気・前向き」をキーワードに、一風変わった写真&ポスター展を全館で展開。個性的な写真展を核に、会場に作られた製作工房での一般参加で作ったポスター掲出など、東京・原宿の土地柄を生かし、企画・演出ともにラフォーレ原宿ならではの斬新なものとなった。

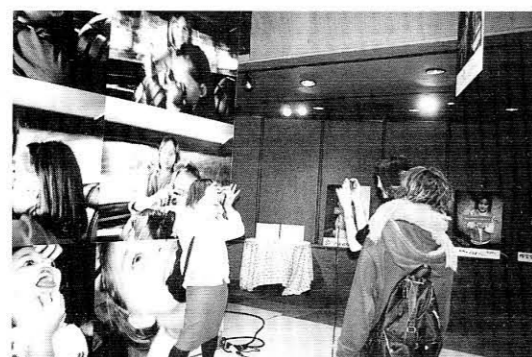
DATA

〈ターゲット〉 若者を中心に広く一般
〈告知〉 ニュースリリース(情報誌、女性誌など約30誌に掲載)
チラシ
インターネット

〈制作印刷物〉 A4チラシ30,000枚
〈スタッフ数〉 7~8人(コア2~3人)
〈入場料〉 300円

趣言

セイキマツという言葉から連想される暗っぽい話題はやめにして、ポジティブに楽しく20世紀最後の年を過ごしたい。新しい時代をハッピーにするのは、屈託のないとびきりの笑顔。そこでラフォーレ原宿は、西暦2000年の幕開け、『Merry』をキーワードに、みんなで新年を祝う展覧会を開催する。



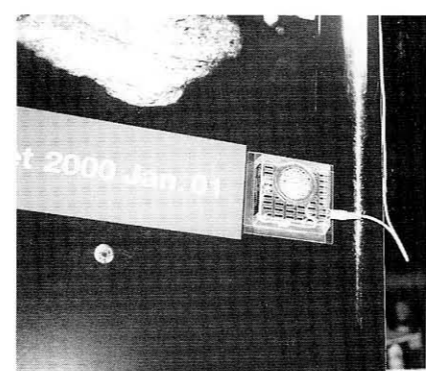
▲来場者はその場で撮影し、5分程度でカードを作成してもらえ(1人1回無料)



▲エプソンのプリンタを核にした、いちど簡単にポスターが作れる企画は、立ち上がりから注目を集めた。今回は、いちど簡単にポスターが作れる企画は、立ち上がりから注目を集めた。



▲ポスターに添えられる本人の直筆のメッセージは、前向きで元気な夢のあるコメントが多かった。どの笑顔も素敵で、見ている我々にもパワーを与えた



▲ミュージアム会場のポスターにはモデル本人のコメントがミニスピーカから流れる仕掛けが、1つ1つのポスターから一斉に聞こえてくるので聞き取りやすい面はあるが、きれいに聞こえない、街の雑踏もまじっている、といったところが面白さでもある

内容

ラフォーレ原宿全館を会場にした写真&ポスター展。6Fラフォーレミュージアム原宿をメイン会場として、水谷孝次氏による写真展『Merry~終わらないメリーゴラウンド』が核となる。さらに巨大プリンターによるポスター製作工房も出現。そこで日々製作される一般参加によるポスターは、6Fミュージアムはもちろん、ラフォーレ館内各フロアの壁面にも進出。さらにポストカード用プリンターも準備して、来場者が自由に製作でき、ピンナップできるコーナーも設置。入場者は会場内のカメラ、プリンターでポストカードの製作・展示・持ち帰りができる。また希望者は巨大プリンターによる。また希望者は巨大プリンターによる。また希望者は巨大プリンターによる。

①PART1.水谷孝次写真集『Merry』~終わらないメリーゴラウンド~
バスの中で偶然出会った少女たちとのほんの数分間をアートディレクター水谷孝次がスピード感あふれる写真に切り取った。屈託のない笑顔が心地よく駆け抜けてゆく。

②PART2.公開スタジオ&ポスター展

「あなたのMerryをポスターにします」
水谷孝次ディレクションにより、会場内に設置されたスタジオで来場者を撮影し、巨大プリンターでポスターを製作する。参加者のメッセージをキャッチコピーにした世界で1枚のポスターは期間中ラフォーレ館内に展示される。有名人参加によるポスター製作も行なう。

③PART3. PRINT FACTORY

「Merryカードをつくらう」
会場の一部はプリント工房。プリンターやデジタルカメラが自由に使える。その場で来場者がオリジナルのポストカードをつくることのできる。作ったカードをその場で自由にピンナップできる展示コーナーもある。



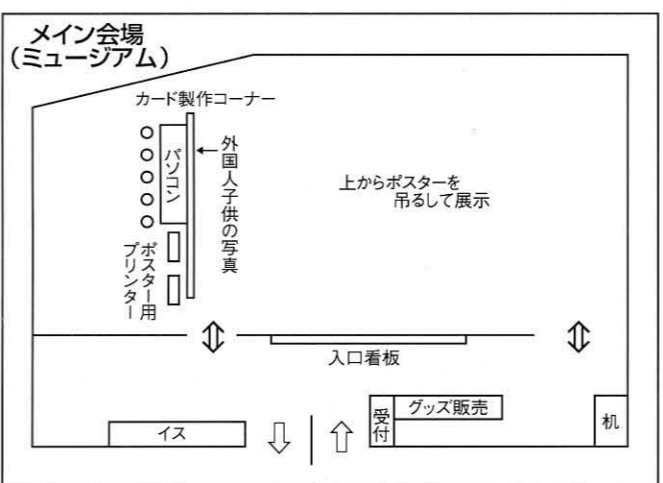
▲写真家・水谷孝次氏の写真集『Merry』も会場で販売(500円)。ラフォーレ館内の写真も撮影してコピーを渡した。

【写真家・水谷孝次氏の話】

展示はアカデミックにしようで、コミュニケーションがとれるようにしました。分かりやすい伝え方、動きのある展示、パーティー会場にいるような雰囲気の間接づくりです。Merryという空間を魅せる、その空気を伝える、音で見せるということが出来たと思います。展示としても完成度が高く、満足しています。

原宿の女の子たちを撮影する以前は、彼女らに多少の偏見を持っていました。ところが撮影を進めていくうちに、原宿の女の子たちの魅力を次第に感じ始め、渋谷や新宿にいる子たちとは違うと思いました。原宿にいる彼女たちは実に知的であり、文化の力を感じます。ポスターに添えられているコメントでもわかるように、意外に古風だったり、日本的だったり…。日本の良さを内に秘めて持っているのは、案外ここにいる子たちなのかもしれないと感じました。さらにその上、日本の不況を這っ払うくらいの元気さも加わり、私が逆にパワーをもらったような気がしています。

この企画は原宿でしか出来ない、ラフォーレでなければ成立しない企画だと私は思います。



担当者の話

(株)ラップネット

ゼネラルマネージャー

プロデューサー 武村 俊氏

館内入口から全館を使っの、原宿の女の子をモデルにしたポスター展示企画です。ミュージアムはあくまでもその1つのパートであり、どこでも貼れるところは全て貼りだすという演出。

この企画が持ち上がった経緯は、まず、写真家・水谷氏の子供の写真があったことに始まります。そうした身近なものを捕らえて、何か一般の人が参加できる企画がないだろうか?というところからスタートしました。そこで原宿の女の子たちをモデルにして何か出来ないか、と考えた訳です。

ですがポスター1枚作るにも印刷に出すと膨大な経費がかかってしまいます。そこで登場するのが低コストで、いとも簡単にポスターが作れてしまうというエプソンのデジタルプリンター。これがあってこそ、この企画は成り立ち、面白さがある訳です。

ポスターはメイン会場のミュージアムに約360枚、館内あわせて700枚ほど貼ってあります。モデルは全て原宿で撮った女の子たち。水谷氏が昨年11月ごろから撮り集めたものです。1枚1枚賑やかで、個性があり、また同じに見えたりと受け止め方も様々だと思えます。

ミュージアム内のポスターに添えたミニスピーカから本人のコメントが流れているのも演出の1つ。街の雑踏に交じって、よく聞けば本人の話も聞こえます。ポスターのショットも、普通の人達が今の技術を持ってやれば撮れるし、ポスターを作るのも簡単である様に思えます。ですが、やはりポスターの出来上がりを見ると、1点1点女の子たちの表情や街の背景は、やはり写真家・水谷氏のテクニック。いい顔を引き出しているところにアートディレクターのセンスが光



▲来場者、または原宿を歩いていた若者の自分だけのうれしい「Merryカード」の発本。作ってもらおうという気持ちをおこさせる

ていて、素人とは違います。単純にみえるようですが、1歩踏み込めば深みのある企画だと感じています。

また2000年最初のラフォーレの企画ですので、明るく行こうという前向きなコンセプト。今年もラフォーレをよろしくというキャンペーン的な要素もありません。そうした意味でもこの企画は宣伝効果も伴っていたと実感しています。

来場者の声

●20代女性会社員(相模原市在住)

みんな夢があっていいなと思いました。ポスターについての声も聞きづらかったのが残念でしたが、展示の仕方がかわいかったです。カードも作ってもらいましたし、面白い企画だと思います。

●10代学生カップル(都内在住)

何かやっているなと思って入りました。1枚1枚が面白くて飽きなかったです。やっぱり原宿の子は、お洒落でかわいいうい人が多いなと感じました。

●20代女性会社員(杉並区在住)

友達に聞きました。ポスター撮り際のドキュメント映像なんか展示と共にあったらもっと面白かったと思います。またやるんですか?次回もしあるなら、ポスターモデルにしたいです。

REPORT

ラフォーレ原宿の企画はいつも目新しく、斬新で面白いものが多い。そして今回、2000年最初の企画ということで「明るさ、元気、前向き」を全面に押し出し、その上にお洒落でかわいさを加えた、ラフォーレらしさあふれる内容だった。

エプソンのプリンターがなければ成立しない企画だが、TVCMだけ「こんなことも出来ます」と言われるのと、実際にポスターやカードを目の前で出来上りを見るのとでは、来場者のイメージもだいぶ違ったのではないだろうか。

ポスター1点1点も背景が様々で、個性ある女の子たちをモデルとし、見ごたえも十分。彼女らのポスターに添えられた直筆コメントや肉声メッセージも、世相を垣間見れる部分もあり、興味深いものがあった。会場の仕掛け方、全館挙げての展開でこの企画の「目立ち度」は高く、効果的。

今年も何かしてかしてくれそうなラフォーレを予感したイベントだった。(1/14(金) 塩原直美)

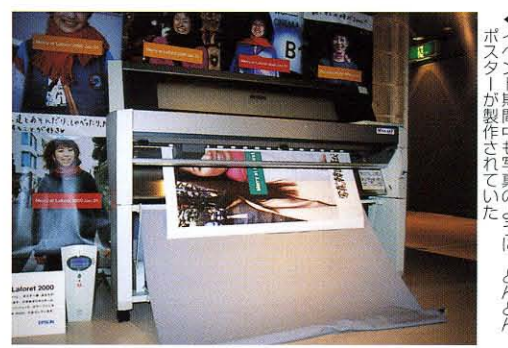
▼原宿の女の子たちの表情豊かなポスター。メイン会場の張り出しだけでも300枚を超え、1点、1点見ごたえがある。水谷氏は「動きのある展示の仕方にしたかった」と語り、それがよく出ている会場だ



▲ラフォーレ原宿正通入口。沢山のポスターが貼られており、全館挙げての企画に期待も高まる



▲水谷氏が撮影した外国の男子が、ラフォーレ原宿のミュージアムでポスターの制作体験をした。水谷氏は「海外でもポスターの制作体験が人気だ」と語る。



▲イベント期間中は写真の撮影体験も人気だ。来場者は自分で撮ったものを印刷して持ち帰ることができる。興味深々



▲来場者も自分で撮ったものを印刷して持ち帰ることができる。興味深々



▲カード制作体験コーナー。来場者は自分で撮ったものを印刷して持ち帰ることができる。興味深々



▲ミュージアム会場のポスターにはモデル本人のコメントがミニスピーカから流れる仕掛けが、1つ1つのポスターから一斉に聞こえてくるので聞き取りやすい面はあるが、きれいに聞こえない、街の雑踏もまじっている、といったところが面白さでもある